

授業改善推進プラン＜学年別＞

3 年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能の問題点】 ○全国学力調査における知識・技能は、全国・都の平均と比べ高かった。一方、授業時に毎週行っている漢字テストの平均は５０％強である。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○記述式の問題の正答率は、27.9であり、都の平均よりも低かった。適切な言葉づかいで考えを述べる力が不十分である。	【知識・技能の育成】 ○漢字テストの範囲を確認する際に、練習時間を確保する。また、学んだ知識が正しく使えるように、短作文を書く際にも丁寧に漢字を書けるようにさせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○自分の考えを書くときには、単語にならないよう、一文以上の短文でまとめさせる。また、２人組～４人組で意見を共有する時間を確保し、教え合いや学び合いの中で、使える語彙を増やす。
社会	【基礎的な知識】 ○定期テストでは約8割の生徒が基礎的な知識を定着させているが、模試等の結果から、過去の学習内容が定着していない生徒が9割以上に上る。単元内での短期的な知識の習得と、長期的な知識の定着に乖離があることを示唆している。過去の学習内容と関連付けながら学習を進めることで、知識の体系化を図る。 【思考力・判断力・表現力】 ○観点別評価から、約半数の生徒が知識を活用し、適切に判断・表現する力に課題を抱えている。特に、資料から情報を読み取り、多面的・多角的に考察し表現する力が不十分である。この課題を克服するために、生徒が自ら課題を	【知識・技能の育成】 ○タブレット端末を活用した反復的な問題演習を導入し、知識の確実な定着を図る。また、グループ活動で社会的事象を考察する機会を増やし、議論を通して知識や技能を習得する協働的な学びを推進する。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○生徒の興味を引く導入を工夫することで、授業の意欲を高める。タブレット端末を駆使した協働学習を充実させ、社会課題の把握や解決策の探究に主体的に取り組ませることで、「社会的な見方・考え方」を育む。
数学	【知識・技能の問題点】 ○全国学力調査における知識・技能は、1コマで扱った知識は、正答率が全国・都と比べ低かった。他の分野の正答率は、45％以上で定着してきていた。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○自分の考えを表現する力は、全国・都に比べ正答率は、高く、無回答率も低かった。ただ、関数の読み取り、記述は、学んだ知識を活かし、適切に判断・表現する力が不十分	【知識・技能の育成】 ○学んだ知識を正しく使えるように授業中に取り扱う。授業開始後の1分間で、前時の振り返りをペアワークで行う。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○始めの2分で自力で考える、自力で考えることが厳しい生徒には、見通しを示し、考えさせる。次に、２人組または４人組で教え合い、学び合う時間をとり、定着を図る。関数に関しては、ICTの活用、繰り返し演習を重ねる。
理科	【知識・技能の問題点】 ○1・2学年の学習内容が定着していない。 【思考力・判断力・表現力等の問題】 ○全国学力調査では、記述式の問題の無回答率が全国平均よりもやや高かった。 ○学習した知識を組み立てて表現することが苦手である。	【知識・技能の育成】 ○1・2年生で学習したことを確認し、過去の学習内容と関連付けながら、学習を進めさせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○実験結果や考察を文章で表現できるようにする。 ○1・2年の復習や都立入試問題に取り組み、学んだ知識を活用して、図や文章を読み取る力を養う。
英語	【まとまりのある英文を書く】 ○テーマに合った、まとまりのある文を書く力を向上させる。 【英文を読んで、概要をつかむ】 ○長文を読んで、おおまかな内容が理解できるようにする。	【まとまりのある英文を書き、交流する機会の設定】 ○さまざまなテーマで、まとまった英文を書く時間を設定する。また互いの文を読み合い、よいところを取り入れるようにする。 【多くの英文を読む時間の設定】 ○たくさんさんの長文を読むことを通して、読解力を養う。
美術	【知識・技能の問題点】 ○丸刀、三角刀などの押して彫る彫刻刀に比べて、切り出し刀を使うのが苦手な生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○彫刻を制作する際、アイデアスケッチの段階で立体的に案を考えられない生徒がいる。	【知識・技能の改善点】 ○切り出し刀の指導の時間は多めに取り、安全かつ力の伝わりやすい持ち方や刃の角度などを繰り返し伝える。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○彫刻の参考作品を見せたり、断面図などを描いて示しながら、できるだけ立体的にイメージできるようにする。
音楽	【読譜能力】 ○類似したリズムや僅かな音程の違いを区別することが難しく、毎時言葉で説明するが定着に至っていない。 【表現力】 ○特に歌唱において強弱や楽曲の情景などを関連付けて表現できる生徒が少ない。	【基礎的なリズムや音楽用語の定着】 ○單元ごとに出てくる音楽用語やリズムを確認する時間を設定し、繰り返し行うことで確実に定着させる。 【対話的な学び】 ○教員の一方的な価値観を押し付けるのではなく、グループでの話し合い活動を取り入れることで表現について各々が考える時間を確保し、具体的な表現方法について考えられるようにする。またタブレット端末を活用した意見交換を行う。
保健体育	【知識・技能の課題点】 ○当該学年の生徒は変わらず体力テストの値が、全国平均を下回っているため、引き続き基礎的な体力の向上が必要である。 ○自身の健康状態の把握や、生活習慣病などの理解、生活習慣の改善をしなければならない生徒が多い。	【知識・技能の育成】 ○引き続き授業内での運動量を３０分以上確保する。 ○保健分野で学習した知識を、他の場面でも活かしていけるように指導する。
技術	【情報の技術】 ○プログル技術の活用を通して、実社会におけるものづくり【双方向性のあるコンテンツ】や、情報モラル、個人情報保護、情報セキュリティなど技術と情報との関わりについて興味・関心をもたせることが課題である。	【情報の技術】 ○ICT機器等での資料・映像を活用し、ものづくりや情報について学習させる。プログル技術の活用で生活に身近な題材を取り上げ、ICT機器等を利用して自ら学ぼうとするよう指導する。 ○Web上のコンテンツ（NHKfourschools）などを利用し、家庭での補充学習に役立てる。現在の技術の課題や問題点などについて考えを深めさせる。
家庭	【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○基礎的な知識を保有する生徒の中でも、自ら考え、それを表現する力に課題がある。	【思考力・判断力・表現力の育成】 ○グループワークや発表、討論などの授業を増やし、表現力を養う機会を拡充する